

## 第4回家庭教育支援指導者等研修 実施レポート

日時：令和2年12月2日（水）10時～15時

会場：秋田県生涯学習センター 3階 講堂

参加者：67名（うち市町村等から44名）

今年度最後となる本研修は「福祉部局との連携による支援体制の充実」「家庭教育支援を充実させるネットワークの構築」と題して研修をしました。秋田市及び岩手県における家庭教育支援・子育て支援に関する連携の実際を知るとともに、協議等を通じて、相談対応や企画段階から連携を図ることの重要性を実感することができました。



### 【午前の部 講話・演習】

秋田市子ども未来センター主席主査の**小原 知子**氏より、秋田市子ども家庭総合支援拠点や、乳幼児と小・中・高生の家庭教育相談事業「ぐりーん・えこー」についてを中心に講話していただきました。秋田市では、現在の相談状況を鑑み、子ども健康課・子ども未来センター・県中央児童相談所で、リスクの程度に応じて役割分担しながら支援します。そこで子ども未来センターでは、家庭教育の充実を図ることを目的とし、個々の課題に直面している保護者に必要な情報提供や教育相談を行っています。この事業は育児上の悩み事等について、面接相談や、保育園や職場に出向いて担任や保護者と1対1で訪問相談に

応じます。相談担当職員や家庭相談員は、秋田市教育委員会生涯学習室の職員等と併任している方もいます。訪問相談までの手順や相談件数の内訳等、相談対応の実際についても詳しくお話していただきました。秋田市子ども未来部・教育委員会の関係機関が、組織として横の関係でつながり、専門性やそれぞれのできることを生かしながら手厚く支援していることが分かりました。参加者の多くは秋田市の充実した支援体制を知り、自分の地域を見つめ直す契機となっていました。演習では、「あなたが心配している世帯について、他機関に伝えてみましょう」というテーマで対話しました。参加者は事例について主体や状況などポイントをもって聞いたり、正確で簡潔に伝えたりすることの難しさを体験することができ、今後の相談対応の参考としていました。

### 【午後の部 講話・協議】

岩手県中部教育事務所の主任社会教育主事**秋澤 美加子**氏より、花巻市における共同実践についての講話の後、講師作成の子育て支援ハンドブックに基づいた協議を進めていただきました。講話では、県の推進センターが花巻市の生涯学習課と子どもセンター、双方の強みと事業上の課題を把握し、両者が連携を図ることで課題解決につながるのではないかと調整役を担ったこと。3者協議を通じて、保護者への学習内容は「NPプログラム（NP＝ノーバディズ・パーフェクト）」的な内容を取り入れた学習プログラムが最適と見出し、方向性を共有したことが紹介されました。そして立ち上がったのが「家庭教育・子育て支援実践セミナー」です。「家族との関わり方どうなっているかな？」「子どももわたしも心地よってどんな事？」等、虐待や育児不安、発達障害について理解できるテーマで、保護者同士やスタッフとの対話を通じてつながりが深まり、多様性を認める価値観の広がりの一助となったそうです。「つなぐ」という任に関して示唆に富む講話内容でした。続くグループ協議では、異なる市町村・役職で構成されたグループになり「できること・できないこと」を紹介した後に、実際の事業企画を考えました。自由な発想が大事だと助言をいただいたおかげで、保育園内で行う「ネットあれこれ相談ブース」、子どもと一緒にホットプレートで作る「男の料理講座」、箸の使い方や秋田弁に触れられる祖父母世代&孫世代イベント等、家庭教育をめぐる現状をふまえながらも楽しく学べる企画が次々に生まれました。参加者全員が、企画段階から連携を図ることは価値があるということに気づき、課題解決への第一歩になることを自分事として思い描くことができました。講師の実践の一部を具現化していただいた貴重な機会となりました。



### 【参加者の声】（抜粋）

- ・子ども未来センターの支援体制のすばらしさに驚いた。救われた方々がきっとたくさんいらっしゃるだろう。そんな心強い機関がわが地域にもあってほしいと感じた。
- ・公的機関や行政組織は「すでに役割が決まっていて山のように動かないもの」というイメージがある。一方でその影響力やマンパワーなど発揮される力は、私たちの生活にも深く関係してくるもの。先生のお話は、終始パワフルで、なるほど「山のように動かない」と私が思ってしまうものでも次々と動かし、つなげ、たくさんの人にWinWinの関係をつくってこられたのだなと納得させられた。